

## 教育委員会第4回定例会議 会議録

- 1 日 時 平成23年4月20日(水)  
 開会 13時30分  
 閉会 14時30分
- 2 会 場 金沢市本庁舎 4階401会議室
- 3 出席委員(7名)

|        |        |
|--------|--------|
| 教育委員長  | 佐藤 秀紀  |
| 教育委員   | 岡 能久   |
| "      | 早川 芳子  |
| "      | 前川 信政  |
| "      | 柳下 道子  |
| "      | 米井 裕一  |
| "(教育長) | 浅香 久美子 |

|     |  |  |
|-----|--|--|
| 事務局 | 教育次長(兼)学校職員課長<br>学校教育部長<br>(兼)市立工業高等学校教育改革推進室長<br>教育総務課長<br>教育総務課担当課長(兼)課長補佐<br>学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐<br>教育委員会担当部長(兼)学校指導課長<br>学校指導課担当課長(兼)課長補佐<br>学校指導課主席指導主事<br>市立工業高等学校長<br>教育委員会担当部長(兼)市立工業高等学校事務局長<br>生涯学習部長(兼)生涯学習課長<br>女性センター館長<br>中央公民館長<br>キゴ山少年自然の家館長<br>(兼)キゴ山天体観察センター館長<br>(兼)キゴ山ふれあいの里館長<br>教育委員会担当部長<br>(兼)図書館総務課長<br>(兼)玉川図書館長<br>泉野図書館長(兼)平和町児童図書館長<br>泉野図書館副館長<br>玉川こども図書館長<br>玉川こども図書館副館長<br>金沢海みらい図書館長<br>教育プラザ富樫総括施設長<br>(兼)地域教育センター所長<br>研修相談センター所長 | 上 林 雅彦<br>平 嶋 正実<br><br>浦 世史宏<br>高 村 政博<br>長 谷 進一<br>野 村 豊<br>山 田 裕<br>平 澤 晃一<br>浦 上 光太郎<br>奥 村 敏郎<br>縄 寛敏<br>三 輪 哲夫<br>興 津 俊幸<br>戸 田 正登<br><br>森 田 勝<br><br>川 上 憲治<br>廣 田 康太郎<br>岡 朝子<br>村 田 健<br>石 蔵 茂幸<br>越 田 理恵<br><br>山 下 美奈子 |
|-----|--|--|

#### 4 案 件

非 議案第 15 号 教育委員会所管の委員会等の委員の委嘱等について (生涯学習課他)  
そ の 他

- ( 1 ) 東日本大震災の被災児童生徒の受け入れ状況等について
- ( 2 ) 金沢市立小・中学校別児童生徒数、学級数及び教員数について
- ( 3 ) 平成 23 年度金沢市立工業高等学校の生徒数・教職員数  
及び平成 22 年度卒業生の進路について
- ( 4 ) 学校図書館司書について
- ( 5 ) 次回の定例会議の日程について

#### 5 議事の経過等 以下のとおり

佐藤委員長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として早川委員を指名した。本日の議題について佐藤委員長が議案第 15 号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

事務局の自己紹介の後、その他(1)(2)(3)(4)について説明・質疑応答が行われた。また、5月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。各委員からその後、議案第 15 号について非公開で審議に入り、原案どおり可決し、閉会した。

\* 5月の定例会議の日程：平成 23 年 5 月 19 日(木) 13:30 ~

[ 案件の説明及び諸報告について ]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[ 主な質疑・応答の内容について ]

##### その他(1) 東日本大震災の被災児童生徒の受け入れ状況等について

(説明の概要) これまで本市の学校に受け入れた児童生徒は 32 人である(小学生 25 人、中学生 7 人)。このうち小学生 1 人については、既に避難前の居住地の方に戻っていることから、本日現在、本市の学校に就学している児童生徒は 31 人となっている(小学生 24 人、中学生 7 人)。学籍にかかわることであるため、詳細については申し上げられない点もあるが、避難元の自治体は福島県の自治体が最も多い。本市では小学校 11 校、中学校 5 校が受け入れており、小学校 1 年生から中学 3 年生まですべての学年で受け入れている。教育委員会としては、受け入れた児童生徒の日常生活や学習環境の確保、被災に伴う心のケア等について、就学先の学校と連携を図りながら、個々の実情に応じて丁寧に対応していきたい。なお、就学に対して経済的な支援を行う就学援助制度の適用に当たっては、り災証明や従前の居住地の確認等により認定を行うなど、できる限り弾力的に取り扱っていきたい。

続いて「金沢市のユネスコスクールを中心とした東日本大震災被災地の児童生徒への支援」について説明させていただく。現在、募金などの活動を行っている学校もあると聞いているが、今回は市内のユネスコスクール加盟校が中心となって他校への呼びかけを行い、文房具等を被災地に届けるといった活動が行われることになっているので、ご報告させていただく。

宮城県気仙沼市はユネスコスクール加盟校が大変多いが、金沢市はそれに次いでユネスコスクール加盟校が大変多い地域となっている。ユネスコスクールのつながりも生かしながら何かできないかという加盟校の思いを受け、今、小学校・中学校ごとに動きが出てきている。小学校ではユネスコスクール加盟校を中心に、金沢市立小学校長会が全小学校に呼びかけを行い、賛同いただいた学校では保護者への協力依頼も行い、各学校から被災地に物資を発送するというように昨日の小学校長会で決まった。中学校ではユネスコスクール加盟校が他の中学校へ呼びかけを行い、

保護者へ協力依頼もしながら物資を調達し、1カ所に集めてまとめて送るという活動をしている。

ユネスコスクール関係の支援者で中間支援地は東北大学、宮城教育大学、岩手大学の三つとしている。そこから岩手県、宮城県の各教育委員会とのつながりができており、そうしたルートを使いながら文房具等を送る。今週の月曜日と火曜日に各小学校長会、中学校長会で決まり、こういった内容の活動が始まることになっている。教育委員会としても各学校の取り組みに対して必要な支援をしていきたい。

早川委員

テレビのニュースによると、福島出身と分かっただけでその人の受け入れの態度が変わるということです。特に子どもたちはちゃんと理解せずに、親や周りの方が話していることから勝手に想像して行動するので、せっかく金沢に来てくれた生徒たちを避けたりすることがないようにしてほしいです。具体的にどうすればいいか、私には分かりませんが、佐藤先生は子どもたちに正しい理解をさせたいとおっしゃっていました。どれくらいの期間になるか分かりませんが、せっかく金沢を選んで、ご縁があって来てくれた生徒たちを子どもたちが快く受け入れて、その生徒たちが金沢の生徒たちからいろいろ学んでくださればいいし、金沢の子どもたちも、遠くから来た、違う文化を持った子どもたちからたくさん学ぶ機会になってほしいと思います。何となく私の心の中に不安と心配があるので、そのあたりをぜひよろしくお願い致します。

佐藤委員長

今、早川委員からも出ましたが、せっかく金沢地区を選んで来ていただいたわけですから、その生徒たちが気持ちよく勉強できるように教育委員会としての最大の努力をしてほしいと思います。

これはほかのところでちょっと話が出たのですが、この際、原子力や放射能についても学校でしっかりと学習する機会を設けてほしいと思います。やはり正確な科学知識を持つことが、単なる風評に左右されない、しっかりした基盤を作ることだと思いますので、そういうことをまた一つの学習の機会ととらえて、しっかりとやっていただければと思います。

また、ユネスコスクールを中心とした被災地への支援が起きてきて、ユネスコの精神を実際の状況に合わせて勉強し、具体的な行動を起こすことにつながったことは、金沢市のユネスコスクールが急速に伸びている現状から見ても大変喜ばしいことだと思います。これがきっかけでまたユネスコスクールが増えていくことになればと思いますし、関係の方々にぜひ頑張ってもらいたいと思います。

## その他(2) 金沢市立小・中学校別児童生徒数、学級数及び教員数について

(説明の概要) 本年度の児童生徒数、学級数及び教員数について、8ページの数字は入学式ならびに始業式が行われた4月7日現在の数字である。児童が最も多い小学校は大徳小学校(児童922名、30学級、教員38名)であり、児童が最も少ない小学校は朝日小学校(児童6名、2学級、教員3名)である。小学校59校の総計は、児童24,603名、951学級、教員1,278名となっている。

次に、生徒が最も多い中学校は西南部中学校(生徒898名、26学級、教員44名)で、よく似た規模の大きな学校は高岡中学校と浅野川中学校である。また、生徒が最も少ない中学校は医王山中学校(生徒16名、3学級、教員7名)である。中学校24校の総計は、生徒11,822名、385学級、教員696名となっている。金沢市内で約36,000人の子どもたちが学び、約2,000名の教員が教育に当たっている。

9ページには参考資料として、ここ10年間の学級数、児童数、教員数の推移を示している。今年度の学級数について、小学校では通常学級が835学級、特別支援学級が116学級、合計951学級となっている。平成13年と比較すると、通常学級は45学級の増、特別支援学級は51学級の増となっている。中学校では通常学級が338学級、特別支援学級が47学級、合計385学級で、平成

13年と比較すると、通常学級は23学級の減、特別支援学級は30学級の増となっている。今年度の教員数については、小学校は1,278名、中学校は696名、合計1,974名である。平成13年と比較すると、小学校では151人の増、中学校では30人の増となっている。

早川委員

ちょっと尋ねてみたいことがあります。答えは見つからないかもしれませんが。特別支援学級がこの10年間で随分増えましたよね。ということは、10年前やその前は養護学校へ行くという生徒が多かったのだと思うのです。「健常者」という言葉は違っているかもしれませんが、健常者の生徒と一緒に学んだり、もちろん別々でないと無理な時間もとても長いと思いますが、学校行事を一緒にすることでお互いにとても良い結果が生まれたとか、健常者の子どもたちのハンディキャップを持つ子どもたちへの理解が深まったとか、いろいろなギャップを抱えている子どもたちにも誇りが生まれたとか、そういった10年間の成果というのがあります。多分目に見えなくて、とても答えにくいと思います。特に健常者の子どもたちが社会に出たときに、以前にいろいろな人と学んだことがあるという経験はとても大切だと私もいつも思っています。もし何か、こんないい結果があったという例があれば教えていただけますか。

上林学校職員課長

最初のご質問の特別支援学級の伸びについては、平成18年度あたりから1名でも特別支援学級が開設できるようになったのです。これは一人一人のお子さんに対する教育を推進していくという観点からでして、それまでは8名まででしたが、1名で開設できますので、それぞれの地域で特別支援学級を開設するという形が多くなってきたのです。なお、特別支援学級に在籍しているおさんは、授業の約半分の時間は通常の学級の子どもたちと一緒に授業を受けることもできるので、そういう形で授業と一緒に参加することもあります。

そういった意味で、特別にそのお子さんをどうこうではなく、一緒にかかわる中で、ご指摘のとおり、子どもたちの心の面、あるいは助け合いの心もはぐくまれたというようなことも聞いています。何はともあれ、一人一人の子どもたちを伸ばすという観点から、特別支援学級の充実を図っていかねばいけないと思っています。

佐藤委員長

今のことに関連して、児童生徒数の推移を見ると、若干の違いはあるのですが、小学校では急激に増えたり、あるいは減ったりということはあまりなさそうな感じですね。若干減っているかもしれませんが。

ここには「特別支援学校」の方に行っている人数は出ていませんよね。その生徒数の推移は分からないのかもしれませんが、何か分かっていることがあれば、どういう状況になっているのか。これはこの範疇ではありませんから、あまり情報としてはお持ちでないかもしれませんがね。

上林学校職員課長

100人弱と思いますが、正確な数字ではありませんので、次回報告させていただきたいと思います。

### その他(3)平成23年度金沢市立工業高等学校の生徒数・教職員数及び平成22年度卒業生の進路について

(説明の概要)平成23年度金沢市立工業高等学校の生徒数・教職員数及び平成22年度卒業生の進路結果についてご報告させていただく。定員720名、学級数18クラス、生徒数701名(男子566名、女子135名)、教員数65名である。

平成22年度卒業生の進路状況については昨年12月に一度ご報告させていただいたが、平成23年3月31日現在の状況をご報告させていただく。卒業生236名中、就職希望者は124名(53%)。就職先の種別内訳は、官公庁6名、民間会社115名、自営業等3名、地域別では県内113名、県

外 11 名となっている。昨今の大変厳しい社会情勢の中で本校の卒業生を多くの企業に採用していただき、誠にありがたく思っている。また、地場産業に有為な人材を輩出するという本校の目的どおり、多くの生徒が県内の企業に就職している。

また、進学者は 108 名（46%）である。種別内訳は、大学 67 名、短期大学 5 名、専門学校 36 名、その他（未進学者）4 名となっている。今年度も生徒が希望する進路に進めるよう、学校全体で努力していきたい。

佐藤委員長

数値的には進学・就職等も含めて良好な状態だというお話でしたが、特に就職について、就職先の種別、あるいは県内・県外というような数値の傾向は、ここ数年来の変化の中で何か変わったりしているのでしょうか。

奥村市立工業高等学校事務局長

今年の就職者の就職先ですが、地元の企業への就職者が非常に多く、特段、例年と変わった様子はありません。基本的には地元志向が非常に強く、県外への就職は少ないという状況が現在のところ続いています。

#### その他（４）学校図書館司書について

（説明の概要） 学校図書館への人的支援については、これまで「本の先生」を 8 人、2 週間に一度学校に派遣してきた。この度、読書活動の推進や調べ学習の充実など、学校図書館の一層の活性化を図るため、今年度より 21 名の図書館司書を市内の全小中学校に配置する。学校規模に応じて週 1 日、または 2 日を基本としているが、学校図書館教育推進モデル校には週 3 日配置する。

司書の採用スケジュールは、今月 28 日までを募集期間としており、昨日までに 24 名の応募があった。選考試験は 5 月 22 日に実施し、7 月 1 日に採用し、その後の研修を経て 7 月中に各学校に配置していく。

学校図書館教育推進モデル校については、司書が週 3 日配置されることを生かして、学習活動や読書活動の充実に取り組み、実践研究を進めてもらう。おおむね 18 学級以上の 4 校（小学校 3 校、中学校 1 校）を、地域性も考慮しながら、希望する学校からの提案書等に基づいて決定していく。3 日間の配置でどういう効果があるのかということも検証しながら、来年度以降につなげていきたい。成果公表については、市教委で主催する会議等で、創意工夫ある各学校の成果発表を行う。そして情報発信を行うとともに、より有効な活用について普及・啓発を図っていきたい。

早川委員

司書の方がどの学校に行くかという配分は、どのように決める予定でしょうか。地理的なものなのか、希望をとるのか。自分がもし司書として雇われたとき、とても気掛かりな事項なので、知りたいです。

上林学校職員課長

いろいろな配置方法があると思います。中学校区で配置する方法もありますし、ご自宅から近いところということもありますが、できる限り司書の方のご希望に沿うように考えていきたいと思っています。また、学校の教育を考えると、やはり小・中で配置した方がいいというところもあるので、そのあたりも含めて、今後はいろいろと方法を考えながら進めていきたいと思っています。

#### 各委員からの意見、感想

柳下委員

私は昭和のころから特別支援教室の相談を承っています。特別支援が最近非常に盛んにされているということで、特にお母さん方からもいろいろな相談を受けて、学校での問題などを先生方をお願いする機会があればお願いしたいという思いで教育委員を引き受けさせていただいたのですが、実際いろいろとお話をお伺いすると、先生方はかなり一生懸命努力していらっしゃる事が分かりましたので、そういう意味ではこの仕事に就かせ

ていただいて良かったと思っています。

これからは「インクルージョン教育」が柱になると思います。先ほど早川先生がおっしゃいましたが、私自身もこれから「インクルージョン教育」がどういう形でいくのが一番理想的なのか、少し一緒に勉強させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

米井委員

3年間やってきて、たくさんの学校を見せていただきました。総合訪問の際には事務局などにいろいろと心遣いをしていただきまして、本当にいろいろなことをさせていただいたという気がします。

昨年、特に印象に残ったのは、明らかに問題行動のある小学校1年生を初めて担任する若い女性教諭の奮闘する姿です。感心したのはその人の頑張りだけではなく、周りの先生方のサポートであったり、校長先生がサポートしながらも「結局はこの人自身が乗り越えないと駄目なんだ」とおっしゃっていたことです。

教員の指導や育てるということの中で、授業のテクニックのようなことはよく挙がるのですが、そういうものを見ると、もちろんその先生だけでなく、今まで見てきた中で「これは」と思う人は、やはり何かその人の考え方があっていいのではないかという気がします。いわゆる向き合い方のようなものです。こうしたら良くなる、ああしたら良くなるということはたくさんあるのですが、何か注目したいというのは、何でもなし、例えば日常のルーティンの行動が違ったり、そういったところから始まっているのではないかと感じるに至りました。

私の記憶力がもう少し良ければいいのですが、3年間見た中で、「この先生は4年目になったらこんなふうになったな」と感じる事ができれば、非常にいいかと思えます。何が出来るかは分かりませんが、大したこともできませんが、自分なりに一生懸命、また今年1年間やらせていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

岡委員

私は教育委員という立場を拝命して、最初はびっくりしてました。金沢市で生まれ育った子どもたちが伝統工芸と伝統文化などになじんで、金沢市はユネスコのクラフト&フォークアート、また歴史都市という、他の都市にないような個性を持ち、皆さん一生懸命力を入れておられます。そんな中、自分の携わっている職業や生活スタイルの中で、子どもたちが特色ある金沢っ子として育つよう、微力ではありますが、協力できればと思って参加させていただいています。またよろしくお願い致します。

前川委員

私もこれで3年で、今年は最後の年になります。あまり多くはなかったのですが、3年間いろいろな学校を訪問させていただいて、指導主事の先生方のご苦勞、そして現場で子どもたちと一生懸命接していらっしゃる先生方のご苦勞を垣間見る機会がありました。その都度、いつも思っていたのが、やはり皆さん本当に一生懸命子どもたちのために、あるいは子どもたちによかれということで、いろいろ苦勞されていることです。私は学校医として幾つかの学校へ行かせていただいているのですが、学校医の立場で見ると、教育委員として学校へ訪問させていただくときと、随分違って見えたという印象は持っています。その面から、学校医として学校へ行ったときに、また違った形で皆さんにお話しできるようになったのではないかと思います。ただ、私の立場上、やはり子どもたちが健康で、そしてまた安心して勉強に励めるよう、そういった環境整備や医療、あるいはいろいろな形での健康管理の面でも力になれるかと思えます。

もう一つは、やはり先生方の健康管理というか、精神的にもいろいろな問題を抱えていらっしゃる先生方が大勢いらっしゃると思っております。そういったことに少しでもお役に立てればと思っていますので、最後の1年、しっかり頑張りたと思います。よろしくお願い致します。

早川委員

私もあつという間に3年間で過ぎて、4年目に入りました。三つのポイントでお話しします。一つ目はとてもうれしかったこと、二つ目と三つ目はお願いというか、希望になると思います。

一つ目は成人式の贈り物を、エコバッグの代わりに、自分の健康状態を見る良い機会にしたいと、この会議で何度も、本当にしつこいくらいお願いしてきて、ついに実現しました。健康診断を受けられるカードではないのですが、こんな検査がありますよというのと、心の問題があったらここへ電話してくださいとか、とてもかわいい冊子が20歳の方に送られたのが本当にうれしい、とても印象に残る出来事でした。そして去年からは、肝心の会議には諸事情があって出席できなかったのですが、小学校・中学校のお子さんたちに、自分の健康状況を見る冊子ができたのも、とてもうれしいことです。

自分を守るのは自分しかいないという感覚を小さいころから身に付けてほしいのです。今、大人のがんの検診率がとても低いのですが、かつてそんな経験を何もしないで大人になってしまった方に今更一生懸命言ってもなかなか率は上がりません。小さいころから自分のことを自分で管理することができるように本当にいいなと、今スタートしたばかりですが、うれしく思いました。

2番目は、私が教育委員に任命された理由の一つが、いろいろな国々の人との接点があることだと思います。国際化や国際人という、みんな目が外に向けてしまうのですが、本当は自分の生まれた土地のことをよく理解して、誇りを持つことが一番国際的なことなのです。ですので、岡委員のご協力などを得ながら、茶道があり、素囃子もあり、本当にさまざまな活動をしていらして感心するばかりです。さらに自分の国のことをもっとよく知り、そこから少しずつ視野を広げて行ってほしいです。3番目は希望として、世界中のいろいろなところで自分と同じ年齢の子どもたちが一体どんな生活をしているのか、特に発展途上国の子どもたちがどんな暮らしをしているのかをぜひ理解できるチャンスを、もしくは授業をしてほしいです。視野がだんだん広がって、ではそこで自分は何ができるかとまた自分へと戻ってくるような、そんな子どもたちの教育をお願いしたいと思えます。

浅香委員(教育長)

大変大きな災害がありました。金沢市は浅野川水害を一つのきっかけとして「絆」教育を始めたわけですが、あまりに大きな災害を前に、正直言葉に表せられないというか、その思いをうまく伝えられないのですが、災害で失われたものが本当に大きいからこそ、逆に得たものや学んだことを学校教育において、それから社会教育、生涯学習など、いろいろなところで生かしていくことが大切なのではないかと、今だからこそ思います。

もう一つ、この間からよく言っているのですが、教育は大変大切なものだと思います。そういう教育にかかわっていることに矜持を持って、皆さまにもやっていただきたいし、自分もやっていきたいと思えます。

佐藤委員長

私からも2点ばかり話をさせていただきます。1点は日ごろ思っていることでもあるのですが、この前卒業式に出たときの体験から強く感じたことです。ある小学校の卒業式へ行ったら、校長先生から賞状をもらって演壇から降りる階段が、3~4段ぐらいしかないのですが、この3~4段を生徒が下りていくときの体のバランスや格好等を眺めていたら、その学校の児童は極めて不安定で、恐る恐る下りたり、あるいは途中でちょっと止まったり、私が見たところ5割ぐらいの生徒がそういう状況だったのです。これはどうも体力がないのではないかと思い、後で校長先生に体力テストの結果をちょっとお聞きしたら、実は平均よりかなり悪いのだと言われました。これはやはり生徒にとっては、かわいそうで、残念だという感じが

しました。

私が申し上げたいことは、体力の問題を学校でもう少し大切に思っていたいただきたいということです。「知・徳・体のバランスを」と標語ではよく言うのですが、どうしても知力中心になりがちです。それから徳については、金沢は「絆」教育で力を入れていこうというので、これは非常に大切なことでいいことだと思いますが、もう1点、やはり体力はあらゆるもののベースになるものです。それをやはり6年間でどう育てていくかによって随分と差が出るものだとあらためて感じました。市の体力テストの結果なども公表されていますが、確か金沢市の平均値は悪くはないと思います。しかし、市の各学校のばらつき具合を見ると、やはりかなり差があるのではないかと思います。そういうところは教育委員会としても、学校と一緒に指導していただいて、6年間の積み重ねを大切にしていいただきたいという感じがします。

もう1点はわれわれ教育委員会のあり方についてです。「教育委員というのは何をしているのですか」とよく聞かれるのですが、やはり地域社会や地域住民の方々から見て、いまひとつ教育委員会が開かれていない面があるのではないかという感じがしています。教育委員会が地域住民に開かれることについて、もう少し工夫があった方がいいのではないのでしょうか。石川県の教育委員会の連合会でいろいろ情報交換をすると、地区のいろいろなところへ出かけていって教育委員会を開いているという教育委員会も幾つかあります。われわれももう少し地域社会や地域住民の中に出ていってご意見を聞いたり、あるいはどんなことを議論しているのかを知ってもらったりする、そういうオープンな、あるいはもっと身近な教育委員会というものをもっと進めていく必要があるのではないかと感じています。

それぞれ皆さんからご報告なりご感想をいただきました。事務局の方々についてもいろいろと努力していただくことができるでしょうし、あるいはご意見もあると思いますので、また聞かせていただいて、より良い教育委員会にしていく必要があると思います。よろしくお願いします。

以 上

## 会 議 録 署 名

教育委員長 \_\_\_\_\_ 署 名 \_\_\_\_\_

教育委員 \_\_\_\_\_ 署 名 \_\_\_\_\_

(早川委員)



[ 非公開議案の主な質疑・応答の内容について ]

**議案第 15 号 教育委員会所管の委員会等の委員の委嘱等について（生涯学習課他）**

( 1 ) 金沢市社会教育委員の委嘱等について

社会教育法第 15 条第 2 項及び金沢市社会教育委員設置条例第 2 条の規定により金沢市社会教育委員を委嘱します。

1 委員の委嘱及び解嘱

| 区 分 |      | 所属機関・団体名  | 役職 | 氏 名   |
|-----|------|-----------|----|-------|
| 委嘱  | 学校教育 | 金沢市中学校校長会 | 会長 | 西崎 辰雄 |
| 解嘱  |      |           |    | 竹森 孝二 |
| 委嘱  | 社会教育 | 金沢市公民館連合会 | 会長 | 金田 洋  |
| 解嘱  |      |           |    | 小寺 昭久 |
| 委嘱  | 社会教育 | 金沢市青年団協議会 | 会長 | 窪田 篤  |
| 解嘱  |      |           |    | 細川 真嗣 |

2 任 期

平成 23 年 4 月 20 日から平成 23 年 11 月 30 日まで（前任者の残任期間）

3 理 由

所属団体の役員改選に伴う委員の交代

( 参考 ) 金沢市社会教育委員名簿

| 氏 名     | 所属機関・団体名等         |
|---------|-------------------|
| 西 崎 辰 雄 | 金沢市中学校校長会会長       |
| 金 田 洋   | 金沢市公民館連合会会長       |
| 高 田 千恵子 | 金沢市校下婦人会連絡協議会会長   |
| 窪 田 篤   | 金沢市青年団協議会会長       |
| 香 村 幸 作 | 金沢市子ども会連合会会長      |
| 石 野 一 樹 | 金沢市 P T A 協議会会長   |
| 米 沢 寛   | 金沢市体育協会会長         |
| 中 島 秀 雄 | 学識経験者（会社経営）       |
| 澁 谷 良 穂 | 学識経験者（金沢医科大学・外国語） |
| 八重澤 美知子 | 学識経験者（金沢大学教授・心理学） |

(2) 金沢市女性センター運営委員会委員の委嘱等について

金沢市女性センター条例第9条の規定により、次のとおり金沢女性センター運営委員会員を委嘱します。

1 委員の委嘱及び解職

| 区分 | 所属機関・団体名等     | 役職  | 氏名     |
|----|---------------|-----|--------|
| 委嘱 | 金沢市保育士会       | 会長  | 宮本 良子  |
| 解嘱 |               |     | 横山 千賀子 |
| 委嘱 | 金沢市公民館職員連絡協議会 | 副会長 | 井野山 好子 |
| 解嘱 |               |     | 土永 るみ子 |
| 委嘱 | 金沢市校下婦人連絡協議会  | 副会長 | 中村 恵子  |
| 解嘱 |               |     | 丸岡 喜代子 |
| 委嘱 | 石川県女性センター     | 館長  | 酒井 純子  |
| 解嘱 |               |     | 本山 直美  |

2 任期

平成23年4月20日から平成24年5月14日まで（前任者の残任期間）

3 理由

所属団体の役員改選並びに異動に伴う委員の交代

(参考) 金沢市女性センター運営委員会委員名簿

| 氏名    | 所属機関・団体名等          |
|-------|--------------------|
| 中島 秀雄 | 社会教育委員             |
| 吉田三夕里 | 女性センターボランティアグループ代表 |
| 山崎 裕子 | JA 金沢市女性部長         |
| 宮本 良子 | 金沢市保育士会会長          |
| 井野山好子 | 金沢市公民館職員連絡協議会代表    |
| 中村 恵子 | 金沢市校下婦人連絡協議会副会長    |
| 酒井 純子 | 石川県女性センター館長        |
| 萩原 晴美 | 女性センター学習グループ代表     |
| 山本 紀子 | 女性センター講座修了生代表      |
| 菅村美知子 | 石川県男女共同参画推進員金沢地区代表 |

(3) 金沢市図書館協議会委員の委嘱等について

金沢市図書館条例第10条第2項の規定により、下記のとおり金沢市図書館協議会委員を委嘱及び解嘱します。

1 委嘱及び解嘱する委員

| 区分 | 所属機関・団体     | 役職 | 氏名    |
|----|-------------|----|-------|
| 委嘱 | 金沢市公民館連合会   | 会長 | 金田 洋  |
| 解嘱 |             |    | 小寺 昭久 |
| 委嘱 | 金沢市学校図書館協議会 | 会長 | 川岸 典子 |
| 解嘱 |             |    | 石井 秀雄 |

2 任期

平成23年4月20日から平成24年1月31日まで(前任者の残任期期間)

3 理由

団体役員の変更に伴う委員の交代

(参考) 金沢市図書館協議会委員名簿

| 氏名    | 所属機関・団体等      |
|-------|---------------|
| 石野 一樹 | 金沢市PTA協議会会長   |
| 勝尾外美子 | 金沢子どもの本研究会代表  |
| 金田 洋  | 金沢市公民館連合会会長   |
| 川岸 典子 | 金沢市学校図書館協議会会長 |
| 柴田 正良 | 金沢大学附属図書館館長   |
| 中島 秀雄 | 社会教育委員        |
| 札幌 寛子 | 金沢工業大学教授      |
| 房田 悦子 | 公募            |
| 元井 恵子 | 金沢市読書連絡協議会副会長 |
| 横山 恵六 | 金沢こども読書研究会理事長 |

(順不同)

以上